京城日日新聞

電話 編輯 營業 用 三三一一 三三一九 番

本紙定價 一ケ月金七十錢 三ケ月前金金貳圓 郵税一ケ月 廣告料金 五號活字一行金 六號活字一行金 …
朝鮮京城永樂町二丁目七三 發行兼編輯人 島 翔 印刷人 松崎榮次郎 發行所 京城日日新聞社 振替口座京城八〇三七

社說

第百壹號に題す

釋尾春芿

本紙の創刊は七月一日にして本日は恰も第百一號に當れり、然して此第百一號の本紙に於て寺師、眞鍋（義太郎）兩君の本社辭退の辭表を見るに至る、吾輩一言の感慨を記して二友を送るの辭とせざるを得ず。

抑も昨年の春朝鮮人が獨立運動の烽火を擧ぐるや、總督府當局者は愕然として恐慌し、茫然として自失せり、其れより十年の久しき間金科玉條として確守し來りたる寺内式統治方針に就て、彼等自ら一種の疑惑を抱くに至り、寺内式統治方針の根底に多少の動搖を來したる感あり、謂言ふと無く總督府の方針一變され、從來の武斷主義を撤廢されて文治主義を取るに至るならん、從つて言論も開放され從來十年の間、絶對的に新聞雜誌の發行を禁止されしが、今後は新聞雜誌の發行も内鮮人共に許可さるゝに至るべしとの說起れり、吾人は最も早く此說の消息に通ぜり、殊に齋藤總督就任の報傳はるや、該新方針一變の說は確實とされ、所謂言論開放說は確實となれり、於此吾人は多年の宿望たりし日刊新聞の發行を計畫し願書を其筋に出したり、從來十年間此種の願書を出すも其筋は冷然たる態度にて之を受付けざるが例なり、然るに余の願書は直に之を受付置くと云ふことになりたり、尤も係官は何分新總督（齋藤）來任の上にあらざれば許否の事決定せざるも云々と附言せり、余と前後して寺師、眞鍋（義太郎）の兩君も日刊新聞の發行を願出でしと云ふこと後に至りて判明せり、待ちに待ちたる齋藤總督は九月の初め來任せり、來任早々果然統治方針を發表して文化政策を宣明され言論機關も新設を許可すと云ふ意味も發表されたり、吾人は倦厭して許可の日の一日も速からんことを鶴首して待てり、漸く本年一月に入り先づ鮮人に三個の新聞發行されたり、於此吾人は當局者に吾人に對しても許可の一日も速かならんことを云ふ交渉に及びたり當局者の日く言論開放と云ふも無制限にあらず、内地人の邦字新聞としては旣に京城日報、朝新の二新聞あり、新に許可するも一個以上は許可せざる方針なり、君の外に寺師、眞鍋の二人の出願者あるを以て當局者は其取捨選擇に苦しみ居れり三人合同しては如何、然らば三人に一個の日刊新聞を許可せんとの話あり、白上高等警察課長、最も此三人合同案の成立を慫慂せらる三人共各自主張となりて一個の新聞を創立經營せんとの希望にて出願せしことゝて合同案容易に成立せず荏苒二三ケ月を費せし、結局合同せざれば三人共何の得る所無きを以て終に合同すべく餘儀無くされ、四月一日合同案成立し、寺師、眞鍋の兩君願書を取下げしを以て余の名義にて本紙の發行を許可されたり、於此余を社長兼主筆とし、寺師君を副社長兼支配人とし眞鍋君を主幹兼編輯局長とし三人協力して創業準備に當り、漸く七月一日を以て本紙を發行するに至りたり、本紙は斯くして漸く生れたり、其生まるゝや相當の難産なりき、然して生れし時機は宛かも不景氣風と云ふ寒風襲來せし時とて創刊より今日に至る迄の經營も非常に困難を極めたり、此の間の消息を評說せば一編の苦心談を成すべきも是れは他日發表の機會あらんと信ずれば茲に省略す吾人をして忌憚無く言はしむれば本紙經營の困難は單に不景氣風の襲來のみならず、三人協同と云ふことにも多少の原因あることを實驗せしめたり、經營困難は吾々三人をして期せずして三人協同經營の非なるを自覺せしめたり、於此三人の中何人か一人主體となりて經營すべき案を立て、三人協議の結果、終に余が其任に當ることゝなり、寺師、眞鍋兩君は自ら進んで辭退することゝなれり、斯の如き場合は多く各自の利益と權利を主張して、感情の衝突を來すが例なるに吾等三人は何等斯の如き忌むべき狀態に陷らず、眞に欣喜の間に解決して快然分るゝことを得たるは吾人の最も誇りとする所なり、單に此最後に於てのみならず創立前後より今日に至る半ケ年以上の間、三人共議論は盛に戰はすこともありしも、終に一度も感情の衝突を見しこと無く、又一度も醜い爭を見しこと無く、經營難の中にも、三人の間には友情を醱せしこと無く、同情と諒解の下に深せしことを誇りとせざるを得ず、是れ寺師眞鍋兩君の雅量の然らしむる所と深く感謝して措かざる所なり、然して兩君は本社を辭退せるも、各言論の城を有せり、即ち寺師君は京城新聞と云ふ週刊新聞の城主に立ち歸りて主力を其紙上に注ぎ、眞鍋君は釜山日報京城支局の城主として主力を其れに注ぎ、各新鮮半島の言論界に奮戰する勇士たる位置を失はざるは最も吾人の欣喜して止まざる所なり、余は二友と離れて純獨立孤行本社の經營に任ずると共に本紙の經營を執ることゝなれり、實に其言論機關とは此際なり、三人の力を協せて而も經營難に苦しみしものが、一人となりて經營の容易を見ると云ふことは信ずべからず、殊に由來最も經營難と稱せらるゝ新聞に於てをや、而も三人の力を一人に集めば進むに便利なりとも言ひ得ざるにあらず、亦自ら顧むものは何者よりも强しと言ふ諺にして事實となる場合ありとせば吾輩の獨力經營は一種の興味とも思ひ得ざるにあらず、然顧へば前途洋々たる希望に輝けり、吾人は此信念を以て孤軍奮戰の勇を鼓し以て此經營難を突破し、猛風吾々面を吹く新局面を打開招來することに努力するあるのみ、是れ亦鮮開發國威宣張の爲と思へば苦中自ら樂みなりと言はざるを得ず、本紙が百號を以て本社の組織の上に今回の一新紀元を劃せしは偶然の事の如くして偶然にあらずとも言ひ得ざるにあらず、一言以て寺一百號に臨し併せて別れ行く寺師眞鍋兩君に感謝の意を表す。

比律賓紀行

（四）

小林 淺吉

山は高きも低きも一面樹木が生茂つて斧鉞を加へた跡も見えぬ處海岸には處々に椰子林を見る外熱帶に生ずる、マングローブ樹が繁生し、見渡す限り生々淼々蒼水の色と相映發し、山容又數奇を變らして、得も言はれぬ景色である、熱帶からの小島も島影の航路を暴ふて飛び去り、蚊も大分少くなつた、陽は尚多少ゐるが五月雨といふ程でもない、夜は油を流したやうに穩かで暑さも晝程より幾分和らいだ、此の驟雨三回一回二十分位にして止む、驟雨の跡の涼しさは又格別で身の熱帶地帶にあるを忘れる、夜八時馬尼剌港に着いたが未開發港以來夜中の入港を禁止し險すものもあれば用意なく大雨を見舞ふ事になつてゐるのでやむなく近海を周航して天明を待つ、前方三箇の燈臺からは絶えず探照燈の光を投げかけて警戒いと物々し

十七日午前四時半　東雲の空明けて消えのこる星かげをついで船は徐々と港内へ入る、探照燈の光も消えて、朝日が燦々照り輝いたと上から、船は米國艦五隻を先導にして、同三隻を後備にして港口の鐵柵を通過した、右手の島上には兵舎、十棟の兵舎が朝風を受けて涼しさうに立つて居り、更に進むとキヤビテの軍港が見える、軍艦三隻巡洋艦らしいのが碇泊してゐた、……此の邊のながめは甚だ優美である、警備の嚴しいのとは反對に、九時半港外着、米兵式の綿を冠りカーキー色の服を着けた年の若い土人の檢疫醫が、檢疫船から上つて來て、船長に病人は無いかと尋ねる。それが甲板に整列した船員一同を見渡した丈けでサツサと引揚げると入り代りに米人の水先案内が二十四五貫もあるらしい偉大な體躯をヨチ〳〵と大儀さうに運んで來た、十時港内に入つて漸く碇を下した。

日日歌壇（投稿歡迎）

▲寢床の中　紅 點

明け方近く眼が醒めて
ねやの温みの懐かしく
母の乳房にとりすがり
あまえて見たい子供氣の
廿年ぶりに醸くかな。
さては別れし戀人の……
白いかいなも懐かしや
ふと現實が頭の一角に閃く
慘めな寂しい自分が現れる
嫌だ！嫌だ！
また眼を瞑ちて夢に入る、
おゝ夢の姿よ！戀人よ！
情に飢ゆるわが身には
せめて情の夢を見ん

たみ子

うす日さす野邊に野菊の白々とさ
ける〳〵と斯し論にしあれば

小品　紅 點

奥さんをお貰ひなさいと眞面目に勸めて與れる人に對して私は常に次の如く答へる。

「結婚の目的が第一義に於て生殖のことであるとするならば、自分の體驗の結果に徹して、自己と同じ煩悶の肉塊を、自己と同じ懊惱の問題を與へる世の中に作り出すことは罪惡である。更に一面から見ると、徒らに累類を作りさらでだに煩累の多い世の中を複雜ならしむることは、啻に物質上の見地からでなく、自己の自由を自縛することになる。結婚と戀とは全然異つた色彩を有したもので、假令戀の進展が醇化した情緒の結婚にしても、生活の一齣を加へると同時に戀の甘味は崇高なる光りを失ひ、新しき陰慘なる辛味と變る。生活に因はるゝことは吾々に取り大いなる墮落である。吾々は必ずしも三千年來の傳習の上をのみ歩く程馬鹿正直に生れてはゐない」

ヘア左樣で御座いますかと云つた態で結婚を勸める人は何時も歸つて行く。

詩は十五行以、短歌は五首以内

創作

熱光の下を

（三三）

曉 谷

私は瞳子とお前の顏を見詰めたまゝでゐた。言葉が咽喉の處に閊へて小さく慄くやうに顫へてゐた忿怒が胸先にこみ上げて來たのだ小さな弱い獸に向つて抑へ附けてゐた不平と憤懣とが猛然と頭を擡げて來たのに違ひない。

「今になつて、後悔する位なら最初から何故言ひ出した？お前が心配しをして與れるからと默つて甘んじて受けたのぢやないか」

「だけど、妾は着物まで無くするやうな結婚は厭です」

「何も無くすると云ふのぢやないのだ。唯一時融通の方便にしたに過ぎないぢやないか」

「たつて、何時取つて下さるンですよ」

「もう暫く待つたら好いぢやないか、姉さん處から錢が送つて來たら直ぐ受けてやると言ふのに」

「何うだかあてになつたものぢやない、もう暫らく〳〵つて一體何時になつたら目日が開くのですかネ」

斯うした口論のうちに、嬉しい倖ひを感じて來た、私は次第に動悸の高まつて來るのを覺えた。

「取つてやる、屹度受けてやる。然し何も今日に限つたことぢやないから最う二日待つて與れても好いだらうネ」

自分の方に弱味があるだけに、殊に妻であると云ふ爲に私は努めてお前の昂奮を鎭めやうとして言つた。お前の眸は憤懣に、そして僕等かヒステリツクに輝いてゐたやうだつた。

「いやです。いやです。今日受けて、返して下さい。……こんなことを母にでも知らしたらどんなに怒るかも知れやしない。まつたく着物を無くするために結婚したやうなものだから……」

お前が斯う罵詈を言ふやうに言つてる間に何度か口を切りそこねた私は、こうした思ひがけない、全く思ひがけない事を聞かされて了つた。この女は、まア何と云ふ無慚なことを言ふのだらう――と云ふ批判的な心持ちに返ると

「よしッ！返す。今日中とも言はない。タツタ今、お前の見てゐる處で返してやる。貴樣は、何と云ふ冷酷な女だらう。俺が頭を低くして詫るやうに二三日待つて與れと言つてるのに、今日返せとは何だ。馬鹿！――誰が待つて與れと言ふものか。俺は自分の主義や愛の爲なら假令、自分が裸になつても責任を避避しやしない。そんな弱い男ぢやないンだ」今の今まで、切れ〴〵にしか出なかつた言葉が、自分でも驚する程雄辯に流れ出て來るのだつた。丁度芝居の惡漢が颯爽く相手の心を脅しつける時の如に……。

お前は、私に強く出られたので今度は泣き――つまり男に通有な弱點を嫌ふか、更に狡猾な心持ち――を捕れ出したかの如に、默り込んで終つた。

丁度、さうした最中に私のお祖母がやつて來たので「お祖母さん、一寸來て下さい」と怒鳴るやうに叫んだ。

「何か――朝から言ひ合つて」お阿母は眼鏡なものゝやうに安く見たのか、一寸顏を曇らして這入つて來た。

「聞いて下さい。これがお前の女の言ふことでせうか。此間質に入れた着物を今日返せと云ふのです。お糸が、私が二日許り待てと云ふのも聞かないのですから、私は返します、今直ぐ返します」

「そりやね、お糸どんも私が言ふ處り待つと好いに。妾も何時も氣にかけてゐるけど」

「現に何、くどいことを言はないで、濟みませんが私の質所と……つて行つて取つて下さいな」

「糸どん、これは言ひ出したら聞かんのぢやケン。見なされ。」

「聞きやせんぞい。」と泣き入つて言つた。

政界茶話

白堊翁

▼何、診察？近來は全く繁昌しとるよ、内閣の方では高橋や田中は辭めたくても、原が止めさせぬので困つて居るらしいよ。翁も一休みしたいのぢやが、ふかさうは行かない。

▼といふのは、例の無理をして作つた二百九十の實力があるぢやらう。今止められて政權が反對黨の手に渡れば忽ち解散ぢや。今止むるナンテ、黨人共はどうして呉れるといふのぢや。

▼そこで、何でも政友會を永遠に生かして使つて呉れる内閣を作りたいと原も心中で考へて居るのぢやが一寸さうは問屋で卸さない、それにネ、此際の政友會の連中の、例の電氣會社とか、瓦斯會社とか、私設鐵道の買上げとか、マダ〳〵利權がウント殘つて居るのぢやからノウ。

▼併し今一息行き詰まれば、止めるのは分りきつて居る、其時の原は旣くも此冬の議會ぢやよ、さら待つて居つて待つがいゝよ。

▼政界の事は新しくなつて居るが、近來は議論など、何う紛擾を論議しても、今の議會は口先許りで何にもならないよ。ヤレ山縣が入京した、ソレ山縣の會見と、丸で若人共の一喜一憂を氣にして居るぢやない。

▼山縣が入京したので、新聞記者も雇えるやうで、最近平田の老人に逢ふた男の謂ふには、山縣は寺内閣の黒幕者として寺内以上に働いてアヤマつて來ねばならぬ筈ぢやと大氣焔ぢやつたといふ、此樣子ではどうやら原田の方から山縣を訪問するなどは、しいと謂ふ事だよ。併しそこは益々實々ぢや、何と謂つても古狸の寄り合ぢやからぢや。

▼今の若い政治家共が老人連の陰口許りついた處で、山縣大隈の實力があればこそ老人連で其の一擧一動に重大な意味があるのぢやよ、老人連が亡くなりでもしたら日本の政界は出されたりすることは出來なかつたは事實の形を取つた樣な事になりはせぬかね。

内外電報

ロ氏愛蘭問題釋明

ロイドジョーヂ氏は九日演説して愛蘭の形勢に言及して曰く警官の復讐問題に關し警察官の忍耐力は既に盡き且警官は撃退され居れり目下主張されつゝあるが如く愛蘭が戰爭状態に在りとすれば此の戰爭の責任は双方の上に在るものと云はざるべからず警官が一般人民の殺戮の際射殺したりとなすも之を正しとなすに足らず[illegible]行され居るを以て警察官等は正式有形に必要なる證據を得る能はざるを以てなり故に吾人は必要なる場合には強硬なる手段に訴へても秩序を恢復せざるべからず何となれば吾人は國家をして無政府状態に陥らしむる能はざるを以てなり一方政府は愛蘭に完全なる自治を與ふる爲英の手段を進捗せしめざるべからず而も愛蘭に完全なる自治法案を附與するとせば英國は五十萬の愛蘭軍に對抗するの日あるやも知れず然るに於て英國は愛蘭獨立の際海軍創設の權利を附與せむとする計畫には極力反對せざるを得ず愛蘭自治案は英國に對する徴兵を主張するものなるべし愛蘭は潜航艇戰中獨逸を援助したり今是れに對しては何等援助する所なきも戰時中愛蘭は英國を刺さむが爲愛蘭に大軍を募集せむとしたるものなり若し愛蘭人は獨逸の攻勢を取ることを豫知し居たりと(カーナボン來電)

コルクに市街戰起る

大尉一名戰死中尉一名負傷

自動車及馬車に搭乘して市街を偵察し居る英國將校三名下士卒二十名はレヂンタン附近に於てシンフエン黨員の待伏せに遭ひ兩者の戰鬪約一時間に亘りしが大尉一名戰死し中尉一名負傷したり負傷者は多分生命覺束なるべし(コルク來電)

國際交通會議内容

國際交通會議は明年一月十五日を以て佛國巴里に於て開會することに決し居たるが同會議の議事範圍は國際鐵道國際河川國際運河國際港灣等にして東洋方面に關する問題としては鴨綠江豆滿江等あり又支那側よりは南滿鐵道に關し提案するやも知れず尚議長は佛國側より副議長は日本側より選出さるべしと(東京來電)

獨貿易航路問題

米國船舶局長ジヨンソン提督は曰く米國は海運貿易者團と漢堡汽船會社との間に從前獨逸の占めたる貿易航路の米國商船をして就航せしめんとする契約を締結せられしも船舶局は未だ之に正式の認可を與へたることなしとジヨンソン氏は又曰く余が米國汽船貿易者團と漢堡汽船會社との間に締結せられし契約に裏書したるは此の趣旨に依り米國商船會社の利益する所多大なるべきを信じ居れるに依る但し船舶局の制度は七名の委員なり成り右委員會の任命を俟つて後始めて其行動をなすものなりと(華盛頓電)

バ氏の國際聯盟評

ベーシング氏は當地に於て演説して曰く國際聯盟は軍國的計畫案にして歐洲の近時は寧ろ該案を援助するの無價値なる事を示めたり(カンサス來電)

英露國交危殆

潜航艇撃沈を宣す

英國外相カーゾン卿より露國勞農政府外相チチエリン氏に送附せる通牒に依れば今後露國潜航艇の航海するものは見當たり次第英國艦隊は之を撃沈すべしと云ふ右兩國往復文書と共に發表さる(倫敦來電)

ウイルを占領す

波蘭軍隊一部の叛亂

波蘭軍中ジエルコフスキー將軍の麾下の軍隊は叛亂を起し波蘭とエストニア講和委員の取決めたる決定に反抗の意味にてウイルナを占領せるが右講和委員はウイルナ地方及エストニア領域地方に放還せしむるに決したり叛亂者側はウイルナグロドノフは當然波蘭に属すべきものなることを主張せり(ワルソー來電)

住民續々退去す

公報に依れば波蘭軍は九日午後ウイルナを占領したり又倫敦タイムス通信員の所報に依ればウイルナの住民は續々ウイルナを退去しつゝありと(倫敦來電)

新哥薩克義勇兵

—組織既に成る—

露國政府に[illegible]の意を表するものは唯哥薩克の一派あるのみなり過激派をして援助の餘地ならしむる條件の下に新哥薩克義勇兵の組織を見るに至れり一方政府は哥薩克の獨立要求に對し更に[illegible]る處あるべしと(莫斯科來電)

李江蘇督軍自殺

[illegible](南京來電)

支艦發砲事件調査

終了したるも内容は未發表

尼港に於けるパルチザンの邦人虐殺の際に於ける支那砲艦發砲問題に關する日支協同調査は愈終了を告げ聯合調査書に調印せられたる如し今日迄彼我共に調査の内容は發表されず(北京來電)

日支協同討代決す

十日午後赤塚總領事は東三省巡閲使張作霖氏を訪問して馬賊不逞鮮人及過激派に對する日支協同討伐をなすことに申合せをなり日本の臨時出兵は今更如何なり難きも今後の協同動作を試せざる模様なるも現下の状態已むを得ずと見て張氏は十一日更に地方官憲に訓電を發して徹底的討伐を嚴命したり(奉天來電)

不逞團代表會合

十一日間島各地の不逞團代表者は延吉縣太平街に會合し次の決議をなせり(濟律來電)

一、支那軍馬賊を煽動し日軍に對抗せしむ
一、味方六百名は支那[illegible]
一、日軍討伐に來らば[illegible]
一、日軍の越江は國境守備[illegible]し猛襲を振はむ

家族制度調査

内務省にては家族制度問題に關し我國の立場並に家族制度調査委員會は[illegible]人を數名該委員たらしむ[illegible]承諾を得たるより一兩日[illegible](東京來電)

飛機數臺を派遣す

〇〇方面に飛行機數臺を[illegible](東京來電)

賊徒の出沒頻繁

各所に横行撃滅さる

[illegible]

定例閣議

朝鮮諸件決定

[illegible]

吉林邦人死活問題

木材掠奪事件に對する奇怪なる督軍公署態度

[illegible]

曖昧を

[illegible]

副業を

[illegible]

米國の正義人道

高島平三郎氏談

[illegible]

東支鐵道の實權

米人の掌中に歸す

[illegible]

鮮銀兌換券の縮少

松田鮮銀文書課長談

[illegible]

琿春事件與論

[illegible]

上海邦人調査

人口一萬五千餘

[illegible]

支那代表陳述

内務總長張志潭氏は九日[illegible]代表者として日本公使館[illegible]大統領以下支那當局は今回事件の發生せるを甚だ遺憾とする旨を述べたり(北京來電)

上原總長動靜

[illegible]

西澤書記官出張

[illegible]

實業懇談會

決議案を陳情委員訪府

[illegible]本會は必要に應じて開會することゝあるべし

第二 當局に希望要件

一、人心の安定の地方に守備兵の配置を密ならしめられたきこと
一、賞罰を明かにし良否の識別に遺憾なきを期せられたき事
一、治安維持に必要なる警備機關の充實は其數よりも質に重きて率を増進し且つ鮮語を解する内地人警官の増加を圖られたき事
一、鮮人の思想を善導し産業の發達を期する爲内地人の移住を容易ならしむる方法を講ずる事
一、前項達成の方法として全鮮の鐵道網を速成せらるゝ如きは最も有効なる手段なりと認むる事
一、産業の開發に十分の力を用ゐ企業經營を容易ならしむると同時に適當の保護を與へられたき事
一、鮮人の敎化には宗敎の力殊も大なりと認むるを以て布敎に對しては十分の便宜と保護を與へられたき事
一、鮮人施設に關する重要都市の機關の意見を徴せられたき事
一、各地鮮人青年會の現状は往々常軌を逸するの傾向ありと認むるに因て適當の取締を講ぜられたき事

京城)狄谷(仁川)富田西崎(以上京城)大池(釜山)松井(鎭南浦)の七氏は別項記載決議事項を携へ十三日午後二時より總督府に齋藤總督水野政務總監其他を訪問し陳情する所ありたり

滿鮮商議聯合會

出席者決定

來る十五日より三日間奉天商業會議所に於て開會せらる滿鮮商業會議所聯合會に朝鮮側よりの出席者は左記十一氏にして京城以南の出席者は孰れも今十三日午後十時五十分南大門發列車にて北行途中西鮮方面の出席者と合し同行の豫定なりと

(京城)釘本會頭、大村書記長(仁川)狄谷會頭、岡本書記長(平壤)東田副會頭外一名(鎭南浦)鳥越副會頭外一名(元山)本岡副會頭外一名(大邱)佐瀨書記

遠洋航路回復

大西洋に於ける米國炭輸送漸く活[illegible]

東詳航路不振

濠洲農作物の輸出と石炭輸出期に入れる爲荷動き稍旺盛となれるも印度炭の輸出力は月額二十五萬噸位なるに對し英米佛の船舶石炭輸送に配船せらるゝもの漸次増加して本邦船の活動を壓迫し運賃のきも甲谷陀孟買六十留比を唱へしもの昨今は三十三留比と約半額に低落し濠洲炭の輸送も亦船腹

社告

本社は從來釋尾春芿氏を社長とし青柳綱太郎氏を副社長とし眞繼義太郎氏を主幹とし三人の共同經營に屬せし處今回經營上の都合に依り青柳眞繼兩氏脱退して社長たる釋尾春芿氏一人の經營と致し益々社業の發展を圖る事に致候間此段謹告到候

尚兩氏は本社を脱退致候も今後本社の社友として本社に聲援を與ふることに相成候を以て是亦併せて謹告致候

大正九年十月十二日

京城日日新聞社

謹告

從來小生等釋尾氏と共に京城日日新聞を經營致し來り居候處今回都合に依り同社を脱退致候在社中の御眷顧を謝し將來共御厚誼の程願上候也

大正九年十月十二日

青柳綱太郎
眞繼義太郎

謹告

以上社告及謹告の通り青柳眞繼の兩君今回本社を脱退致し小生獨力にて經營致事に相成候に付飽迄孤軍奮戰社運の發展を圖るべく決心致し陣容を新にして奮戰の第一線に立ち候益々四方諸賢の御勢援を願上候

大正九年十月十二日

京城日日新聞社々長 釋尾春芿

別項社告の通り青柳眞繼の兩氏本社脱退と共に眞繼(政治郎)宮本の兩氏退社し新に營業部長として北川吉昭氏入社して營業部を刷新すると共に柴田關氏廣告部長として活動することゝなれり

尚部は何等の異動無く新井久米治氏は編輯部長として益精勵し森二郎編輯氏は社會部長として益活躍し其他全員一致協力奮闘努力すべし

社告

右兩氏は本社理事として營業部に在勤し大に精勵致居候處本人の都合に依り今回退社致候間此段謹告致候

京城日日新聞社

眞繼政次郎
宮本信治

右今回本社營業部長として入社致候間此段謹告致候

京城日日新聞社

北川吉昭(舊名吉三郎)

二面エキス

[illegible]

人事

▲石塚東拓總裁 十三日朝平壤へ
▲木留同理事 同上
▲笠井博士 同内地へ
▲白上祐吉氏(總督府事務官)十二日朝東上月末渡米
▲鈴木音郎氏(同技師)十日附平安南道及黄海道に出張被命

自治制研究團渡日

全南より自治制研究の爲日本に赴くべき團體は十三日朝春日丸にて長崎に向へり(上海來電)

セル地は不振

セル地の内地需要は逐年増加の趨勢にて昆邊各地に於ける生産額も近年著しく増加し同方面にての年産額約二百萬反を算するに至り今春財界好況の際には原料高と相俟つて相場の騰落も素晴らしく當時各地の織物價段は三十圓以上なりしに偶然財界の反動に買約品は殆ど解約せられ機業家の蒙りたる打撃甚大なるより一時は全部操業を休止し只整理に奔走せし結果各物に對する準備全く閑散し漸く昨今多物期に入りて手廻り兼ねるの商状となりしが市價も亦引立たず本年の新品十四圓見當なれば需要時期とて商品賣行きは良好なりと

商況

株式界

昨日の出來高は一躍して千株を突破したが近來になし出來高である▲然し京株の値は相も變らぬ十八圓臺で動かないがそれでも安値は一七圓七十錢を見せた▲他の雜株は一般に反應は無い▲大阪入電の後場は又二圓方の下落を見せたが京株には別に影響はあるまい

十三日大阪入電後場

大株	九六、〇〇
同新	九七、一〇
郵船	一三八、六〇
同新	五七、〇〇
商船	七三、五〇
鐘紡	一九四、六〇
同新	一七二、四〇
東株	六四、六〇
上取	[illegible]

十三日東京入電前場

鮮銀	一〇五、五〇
同新	二九、〇〇
東拓	四二、八〇
同新	一一、五〇
満鐵	九八、〇〇
同新	一五、〇〇
鐵	四二、五〇
同新	一一、〇〇
東株	一〇七、五〇
速取	三五、〇〇

京株市場出來値(十三日)

銘柄	前場	後場
京取 寄引	一八八、三〇	一八八、一〇
同	一八八、三〇	一八八、一〇
朝新	三二、〇〇	一一、九〇
同	三三、〇〇	—
東新	—	—
拓新	二六、〇〇	一六五、〇〇
東新	—	—
亞新	—	—
仁取	—	—

仁川期米特電

十月十三日前場

	寄	止	高	安	公
一節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

京城日日新聞 仁川支局

十月十三日後場

	寄	止	高	安	公
一節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六節	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

東京期米特電

十月十三日前場

[illegible]

大阪期米特電

十月十三日前場

[illegible]

十月十三日後場

[illegible]

本社電話番號
編輯用 三一八番
營業用 三一九番

出來高

[illegible]

聖上陛下伏見宮邸へ行幸
一日の歡を盡させ給ふ

天皇陛下には御豫定の如く十二日午前十一時宮城御出門自動車にて紀尾井町なる伏見宮邸に行幸遊ばされ種々の餘興を天覽午後三時御機嫌麗しく御還幸相成りたり（東京來電）

孫一派公判辯論第二日

法廷を煙に巻き
損なつて一先づ休憩
形式、實體、量刑論
朝鮮の判官も安々とは胡麻化されないと
堀原裁判長面目を施す

相反せる

六百餘日

遂行せん



密陽事件の爆彈

稍冷笑的

法廷十一把束

國境風雲急にして
後發部隊續々出發す

行方不明の密陽事件の爆彈
巧妙を極めた其運搬法
當局苦心の結果漸く發見　同時に連累八名を逮捕す

要路の

其系統

釜山鎭

秘密裡

逃走中を檢問され
不意に拳銃を發射して抵抗　警官隊應戰して三名を殪す

成北にも銃器携帶の不逞輩
交戰の後四名を射殺す

牛二頭

果せる

內地の不逞狩り
多數の兇器を發見押收

湖南線列車衝突
乘務車掌即死し乘客重輕傷十二名

浦港の治安紊る
强盜出沒し新貨下落　生命財產危機に頻す

嘩手跡を

寵愛を享け

「妾は隱れた政治家です」
新來のお役人さんなんかより朝鮮統治には妾の方が委しい
萬丈の紅焰を吐く　料亭千歲の女將

靑樓に來て

紅燈私唱　ローマンス

シベリヤに泣く女（二）
狂女の死と
子を產んで男に捨てられたお蝶

衝動さへ

枕の赤子

深い冥想

姿を晦ま

戀に落ち

地獄で佛

山車、煙火、假裝行列　大浮かれくの
京城神社秋祭前景氣
本年は鮮人側でも

御神輿も

各券番や

偽國士
實は强盜犯人　本町署で逮捕

本籍全羅北道沃溝郡米面秋洞無職金鎭東（三七）は市內北米倉町平壤旅館に潜伏して西間島軍資金募集員と稱し市內の兩班內金方家に對して金圓を强請し

濡手で粟

をしてやらんずと企畫中を本町署の刑事に逮捕され尙餘罪ある見込にて取調べ中の處彼は八年前西間島寬甸縣大韓溝に移住せし以來同地に於て農業を營み居りたるものにして本年陰曆四月中旬「臨時忠南交通事務官に任ず」と記されたる辭令を携帶して大田連山金州井邑等の

各地方

を放浪し居りしも五月下旬午後七時頃全北七寶面甕谷里の資産家金溶變に對し自分は假政府員にして西間島獨立團より軍資金募集の爲に派遣されたる者なれば目前に於て一萬圓を出せ應ぜざれば殺すぞと脅迫して金溶變の室內に案內せしめ簞笥の抽斗を開きて金六百圓を强奪して逃走せる者なりし事判明したれば

身柄は

强盜犯人として十二日檢事局へ送られたるが該辭令は不常足袋底に隱匿し居たりと

鼠疫蔓延の兆
ダブリヤに

本月初旬ダブリヤ方面にペスト病發生し益蔓延の兆あり其後に於いて罹病者總數十八名を出したり尙アバカイドウダブリヤ及マツエフスカヤ、ホルチヤ（後貝加爾線道第八三待避驛）方面に及べり（ダブリヤ來電）

フイルム
山林情話　男の一言　―大正館―

田舍の資產家の息子ビルは運動好きの腕力家だつたが或時父の勘氣に觸れて家を追放され、愛人エセルや父の與へた一萬弗を諦めて靈祭として旅立つた。その途中で有名な山林王アツプ（續く）

齒科の泰斗
ルイヌ氏來らん
アイス齒の研究

成北に大牧場
開設の計劃

女子電話局員
交換手が女子電話局員を愈々改稱
同時に判任官が四百名も出來る

交換手を女子電話局員の名稱に改め局內に女學校を置き且同局の上に於ても優遇しつゝあるが更に新たに判任官に昇進せしむるの途を開き第一回は來る三日中に任命することとなりしが右に就き新名東京電話局長は語る十一日遞信省より命令ありしを以て女子四百名男子五十名の判任官候補を選拔し辭令を受くることゝした何れ二三日中には發表の運びとなるべし女子判任官は決して珍らしきものには非ざるも一ヶ所より一時に四百名を出すが如きは未だ其例を見ず云々（東京來電）

小説 判官照手姫（九十八） 旭亭 楼山 口演

八角の棒が唸る

七郎右衛門言葉を継いで「そこで今月十四日に先祖祭がございます、私が病氣ゆゑ此祭は止めやうと云ふ者もありますが、先祖の祭を止めると云ふのも心持ちの惡いもの故、病中ながら矢張り執行ひます、どうぞ四人も其當日は澤山酒も飲み、精進料理も召上つて頂きたう存じます」成程七郎右衛門の家の先祖祭は大したもの、四人も大名の家來であるから、大名の祭は見て居りますが、其の大名でも恐らく是れだけの祭は出來まい、晩になると別座敷へ四人を案内して、精進料理を運んで來る、兵助太八は左ほどでもないが、庄司は大好酒家ゆゑ殆ど浴びるやうに飲み立てる、惡地太郎はまだ年がいきませんから、酒は澤山飲まないけれども、法華嶽山の山奥で猪の肉鹿の肉ばかり喰つて居たが、今夜は生れて初めての結構な精進料理、甘くて堪まらないから酒の後で更に飯を三十八はい平げた 太「ウーン苦しい」腹を突出して撫て居る兵助笑つて「太郎さんも身の内だ好い加減にして置け」「どうも後藤さん、今日の料理は結構なので、實は食ひ過ぎて苦しくつて仕様がない、腹の皮が突つ張ると眼の皮が弛むと云ふが、アヽ〳〵眠くなつて仕様がない」汚れ物を突出して置くと高野の奉公人が片附けて呉れる、太郎は一人夜の物を掛けないで寢て終ふ、後藤兄弟池庄司は枕に就いて一番入りをして、夜の九つ頃とヨイト兵助が眼を覺ますと、アラ怪し、チャリン〳〵と刃物に打合ふ音、ハテなと思つて様子を窺ふと「賊が忍び入つた出會へ〳〵」と母家の方に騒が揚がつた、兵助驚いて 兵「大八〳〵母家の方に泥棒だ、早く起きろ、庄司を起せ」太「庄司泥棒が入つた、起きろ〳〵」庄司と太郎を呼び起した、惡地太郎散々食つて能く寢込んだ處を起されて寢惚けて怒つた 太「何だ泥棒だ、其れは大變だ」とヒョイと急に立上つたから七尺有餘の大男、頭が天井を打抜いて屋根裏へ入つた 太「御家老何にも見えません」兵「馬鹿野郎、屋根裏へ顔を出して何が見える、加減なしに立つから其樣な眞似をする」太「アヽ然う〳〵」忘れて、實は二階座敷であつたのを忘れて、急に立つたので天井を抜いて首を引込まして終つた」兵「早く首を引込ませう」チャリン〳〵エイツと云ふ刃の音が高くなつて來る、太郎は此の騒の音を聞くとモウ打捨てゝ置けない、傍の木を八角に扱ぎ上げた棒を取つて暗黒三寶駈出したので堀の中へ飛び込んでしまつた、深くない堀で身體が半分ばかり出て居る、ジャブ〳〵と其堀を渡つて行くと○「賊が入つた出會へ〳〵」と聲を擧げて向ふに一人此方に一人と彼方此方へ追ひ込んだ賊共を對手の奉公人が必死になつて切結んで居る 太「サア俺が引受けた」一聲叫ぶか叫ばぬかに、太郎棒を取直して稻妻のやうに振立てるかと思ふとそれも一振り二振りで、三人四人五六人バタ〳〵其れて倒してしまふ、誠に飽氣ない事で、跡から得物を持つて飛んで來た後藤兄弟池庄司 兵「太郎さう無雑作に打倒してしまつては仕様がない、初めての中は少し弱くしてやるものだ」

演藝案内

大正館 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 黄金町 電話八七三 ●十月八日より引續き大興行 ●實寫「北亞弗利加風俗」反尺 ●實寫「ゼーン飛行機」反尺 尾上松之助十八番劇 侠客「夢の市郎兵衛」全五巻 寛永時代の大江戸で男の中の男一匹と謳はれ大侠客夢の浮世の市郎兵衛が生立ちより力士明石志賀之助の危難を救ひ單身乗込み仇討ち助勢をなしたる全五巻の痛快劇 米國メトロ會社特作 情話 「男の一言」全五巻 メトロの明星ハロルドロックウッド氏メイアリソン嬢共演 日活會社十大悲劇の一 故柳川春葉先生の大作 「生さぬ仲」全六巻 前篇を上場し京龍全市の人氣を集中したる本劇は吾日活會社東京及京都の優秀なる俳優の山本一派が白熱的技巧と献身的努力とに依り愈々終局迄全部完成せり 入場料特に普通 毎月一日・十五日・日曜日・祭日晝夜開館

喜樂館 本町壹丁目 電話五九七番 直營日活 十月一日より三大映畫提供 實寫 北海アイヌの熊狩 日本 御の騒動 長尺 活劇 女魔術師 全五巻 悲劇 新派特作映畫 日向島派 深刻なる女賊か侠女か暗黒の魔の手に翻弄されたるヒロインが變幻出沒極りなき天翔空に行く行動は興味を惹かねば置かぬ怪奇劇 米國メトロ會社特作 人情劇 紅一點 全五巻 罪と女とは蔦るゝことが出來ぬ神が定めた使命であらうか思へば此世は苦の世界です、光明の扉を開くべく鍵はいつの日か得られう!! 日活京都派一部新作封切映畫 隅田川乘切り

黄金館 黄金町 電話二三六六・二六三七 國活會社特約 當る十月九日より特別大興行 改築竣工御披露當地有志家諸氏の御後援御寄贈品 祝賞品總額へ壹千圓也 壹等拾圓以上相當品、貳等七圓以上相當品。參等五圓以上相當品。四等三圓以上相當品。其他御一人樣のもれ無く景品進呈 五味國太郎新撮影 四大寫眞上場 新派 時代劇 常暗ヨリ光へ 全五巻 白熱的大好評の連續寫眞 第十六篇 第十七篇 名金 全四巻 西洋劇 社會劇 勞働者ガラオ 後篇 五巻 原作者 麻山敬正 純映畫劇 白菊物語 全五巻 花柳はるみ嬢。吾妻光子嬢。吉山杉作氏出演 實寫の藝術？純映畫劇「哀の曲」二大成功をなしたる國活會社は更に巨費を投じ漸くに此程完成したる名畫を改築紀念として特に上場す 外國出品畫劇問題の泉春葉 公利。 吉野寶典說明？音吹郎。南雄 藤武明尺入合奏？當地琵琶名師 時代の要求に鑑み 毎日晝夜開館 ○毎日晝夜二回開館

阿部豐後守 全六巻 新劇 將軍の驕慢を直諫する苦衷の試合は反つて怒を招く基となりしが海流漲る隅田川の乘切に千田の城に返り咲き吉川御殿の暗闘を一掃して十八萬石の礎を築く武士の典型が牛生の物語り

壽館 本町 電話七八五 十日ヨリ東京歌劇團第三回公演 第一 小橘梅夜作 名村春操曲編 ミュージカルコメデー 講和會議 一場 第二 名村春操作 並曲編 喜歌劇 戀の見物 二場 第三 ○ 名村春操譯 歌劇 石 二場 第四 北曲編 戀の罪 樂劇 一場 第五 歌舞劇 女軍出征 二場

朝鮮郵船

元山出帆（取扱店 吉田運輸會社）

行先	日	船名
大阪行	十月廿五日	[illegible]丸
下關行	十月十四日	京城丸
江原道行	十月十七日	鏡城丸
敦賀行	十月十七日	立神丸
清津行	十月廿四日	立神丸
雄基行	十月廿五日	會寧丸
西湖津行	十月十七日	平安丸

釜山出帆（取扱店 大池回漕部）

行先	日	船名
大阪行	十月十五日	清津丸
大阪行	十月十五日	咸鏡丸
下關行	十月十七日	京畿丸
新義州行	十月十七日	新義州丸
北鮮行	十月廿三日	京城丸
西鮮行	十月十五日	平安丸
鬱陵島行	十月十七日	金海丸
江原道行	十月十八日	濟州丸
濟州島行	十月十七日	昌平丸
木浦行	十月十四日	統營丸
新義州行	十月廿四日	模島丸

木浦出帆（取扱店 郵船回漕部）

行先	日	船名
大阪行	十月廿九日	新義州丸
釜山行	十月十四日	巨濟丸
濟州島行	十月十九日	慶興丸
多島海行	十月廿一日	公州丸
仁川行	十月十七日	全州丸
新義州行	十月十八日	咸鏡丸
鎭南浦行	十月廿三日	平壤丸

仁川出帆（取扱店 郵船回漕部）

行先	日	船名
大阪行	十月廿七日	新義州丸
釜山行	十月廿一日	咸鏡丸
木浦行	十月廿二日	全州丸
海州行	十月十四日	順天丸
鎭南浦行	十月十八日	撥鯨丸
青島行	十月十四日	江原丸
新義州行	十月十五日	平壤丸

朝鮮郵船株式會社 電話二二一・二二二・二二三番 釜山支店 電話一八四番 元山出張所 京城取扱店 南大門驛前 松原運送店 日本郵船會社ト連帶運送ノ便有之候